

有グリノ かかわの版

第 26 号 (2008 年 6 月発行)

[発行元]

有田振興局産業振興部

農業振興課

有田郡湯浅町湯浅 2355-1

TEL: 0737-63-4111

E-mail: arida@mikan.gr.jp

http://www.mikan.gr.jp (有田みかんデータベース)



基礎GAP(農作業の工程管理手法)のすすめ

基礎GAP導入の目的

農産物の収穫後に検査を行う管理方法(結果管理)よりも、農作業の各工程を記録・点検する方法(工程管理)の方が、より効果的に安全な農産物を生産できます。また、消費者、食品事業者への説明や問題が起こった時の原因究明に役立ち、管理コストも優れています。

食品の安全性確保

(1) 農薬・肥料の適正使用の推進

(2) 集出荷管理の徹底

環境保全への取組

(3) 農村環境の保全や周辺環境への配慮

労働安全等への配慮

(4) 農業者・住民の健康への配慮



基礎GAP(農業生産工程管理手法)とは

GAP (Good Agricultural Practice) とは、農業生産工程全体を管理し、適正な農業生産を実現するため、農業生産者自らが、

農作業の点検項目を決定し、
点検項目に従い農作業を行い、記録し、
記録を点検・評価し、改善点を見出し、
次回の作付けに活用する



という一連の生産工程を管理する手法のことで、農業生産を行う上での工程管理という一つの「手法」であり、「規制」や「基準」といったものではありません。

基礎GAPは、農産物の安全確保のみならず、環境保全、農産物の品質の向上、労働安全の確保等に有効な手法であり、このような生産工程の管理手法を多くの産地・農業者が取り入れ、自らの営農・生産条件や実力に応じて取り組むことで、安全な農産物の安定的な供給、環境保全、農業経営の改善・効率化を実現するものです。

また、生産された農産物の安全性や品質の確保等について消費者・食品事業者等の信頼を確保する上でも有効な手法となります。

1、計画

2、実行

基礎GAP
(農業生産工程管理手法)
とは繰り返すことが重要!!

4、見直し・改善

3、点検・評価

図：GAP手法の導入実践イメージ

GAP手法は、農業者や産地が目指す目的や作物、地域によって異なります。

遊休農地の解消にむけて・・・

今年度から遊休農地の解消対策として新たな事業がはじまります

和歌山版果樹産地づくり総合支援事業（農地対策）

事業の目的

和歌山県の耕作放棄地の面積は平成17年農林業センサスで、3,647haに達していて、食料基盤や環境保全といった多面的機能の面でも支障を生じてきています。

そのような中、このような耕作放棄地の解消を図るために農地の有効活用等の効果的な活用を推進するものです。

事業内容

耕作放棄地解消のために以下の2つのメニューがあります。

	長期活用支援	遊休農地解消支援
内容	効率的かつ安定的な農業経営を行う担い手等へ6年以上の長期的な農業経営を図ることに對して地力強化に係る経費を支援	多様な活用者が多様な活用方法を市町村に提案し、市町村が策定する農地活用計画書に基づき、遊休農地の有効活用を行うことに支援
対象農地	農業振興地域内の農用地区域の樹園地及び永年生作物を生産する10a以上の農地(1人あたり)	市町村が指定した緊急に解消を要する遊休農地10a以上の農地
対象者	農地利用調整部会の農業者及び担い手等で市町及び農業委員会が適格と認めるもの	多様な活用者(農業者、法人、任意組織等)で市町村及び農業委員会が認めるもの
要件	6年以上の利用権の設定等及び生産活動の継続・再開	<ul style="list-style-type: none">・対象者が活用方法を提案・3年以上の利用権設定等・遊休農地の解消・生産活動の再開、有効活用の実施
交付単価	地力強化にかかる経費： 20千円 / 10a (初年度のみ)	解消にかかる経費： 50千円 / 10a (初年度のみ)
事業期間	平成20年度～平成22年度	



有田管内の遊休農地活用事例

有田管内でも遊休農地が増加していますが、その一方でこれらの遊休農地を有効活用しようとする活動も行われています。解消方法も様々ありますが、ここでは、そんな取り組みの一部をご紹介します。

農業振興課の取り組み

有田川町生石では、フキやジャガイモ、タマネギ等を栽培し、導入可能な作物の試作・検討を行っています。また、地域のお母さんと子供達とでジャガイモの収穫体験を実施し、地域住民との交流の場としても活用しています。



ジャガイモの収穫体験



収穫したジャガイモ(3品種)

その他の取り組み

有田川町内では社会福祉施設の人たちが協力し、10a程の農地にタマネギやジャガイモ・ニンニク等を栽培しています。収穫物は農協や近くの直売所に出荷したり、施設に併設するお店へ、食材として提供するなど、生産的・社会的活動の場として大いに活用されています。



ニンニクやタマネギ等の栽培風景



収穫したニンニクは上々

また、定年をきっかけに自宅近くの10a程の遊休農地を借り、タラや自然薯、ジャガイモなどを栽培して直売所へ出荷している方や、事業を活用して新たに借りた土地でミカンの栽培を行っている方など、自己の生産活動の場所として活用している事例もあります。

増え続ける遊休農地の活用方法を考え
解消へむけて取り組んでいきましょう。

平成20年度 農業振興課新体制

体制図

課 長 西谷 年生					
産地第一グループ		産地第二グループ		担い手グループ	
主任(GL)	成川 正芳	主任(GL)	西谷 公男	主任(GL)	平井 透
主 査	植田 栄仁	主 査	上野山 浩司	主 査	高松 久起
技 師	水上 徹	副主査	上山 智史	副主査	森 博子
技 師	宮井 良介	副主査	久保 浩之	技 師	山田 芳裕

農業関連団体の担当

	農業士会	4Hクラブ	生活研究グループ
広 域	高松 久起	山田 芳裕	森 博子
有 田 市	植田 栄仁	植田 栄仁	森 博子
湯 浅 町	高松 久起	高松 久起	森 博子
広 川 町	山田 芳裕	山田 芳裕	森 博子
有田川町(旧吉備)	成川 正芳	水上 徹	森 博子
(旧金屋)	成川 正芳	宮井 良介	森 博子
(旧清水)	成川 正芳		森 博子

管内農業者・団体の活躍

農林水産部長表彰

広川町生活研究グループ連絡協議会



去る2月15日(金)和歌山市自治会館において「むらとくらしを考える女性会議」が開催されました。平成19年度女性・高齢者グループの生活・生産に関する表彰が併せて実施され、広川町生活研究グループ連絡協議会(中平泰子会長、会員22名)が農林水産部長表彰を受賞しました。



平成19年度生活研究グループが取り組む食育の事例報告会

有田川町生活研究グループ吉備支部 **事例発表**

去る3月6日東京都有楽町朝日ホールにおいて、平成19年度生活研究グループが取り組む食育の事例報告会が開催されました。8回目を迎えた今回は、有田川町生活研究グループ吉備支部の事例報告が取り上げられ、宮地スミ子会長が発表されました。

平成19年度和歌山県青年農業者会議

額田伸一氏(南広4Hクラブ)奨励賞 **受賞**

平成19年度和歌山県青年農業者会議が、去る2月12日に和歌山県民文化会館で開催されました。有田地方からは、有田市、有田川町吉備支部、南広の各支部が代表としてプロジェクト発表を行い、南広4Hクラブの額田伸一氏が奨励賞を受賞しました。

